

日本 BPW CSW インターン派遣事業

第 63 回 国連女性の地位向上委員会 インターン報告書



2019 年 3 月

認定 NPO 法人
日本 BPW 連合会

第 63 回 国連女性の地位向上委員会 インターン報告書

CSW（女性の地位向上委員会）インターン派遣事業について

日本 BPW 連合会では、16 年前から、若い女性をインターンとして国連主催の CSW（Commission on the status of women）に派遣する事業を実施している。自費での参加とはいえ、通常では、入れない場所に入り、普通では会えない人とも知り合え、その経験は、まさしくグローバルに展開する若人にとって、かけがえの無い貴重な体験と言える。

日本でも、「女性活躍推進法」の成立を含め、女性の社会進出が脚光を浴びて久しいが、その動きは、諸外国に比較して、立ち遅れているのは、GGGI(Global Gender Gap Index)が、示す通りである。

16 年目を迎えた本事業について、今年もここに報告書を作成し、参加した 3 名の現役女子大生の経験と感想を共有し、今後の若い世代の活躍の一助となることを期待する。

本事業の詳細等については、本文を参照願う。本報告書に目を通されたみなさんの本事業へのご支援とご協力を仰ぎ、日本 BPW 連合会は、若い世代への支援をこれからも、精力的に続けて行く所存である。

目 次

ご挨拶 日本 BPW 連合会理事長 平松昌子	2
第 63 回 国連女性の地位委員会（CSW63）について	3
サイドイベント チラシ・プログラム	4
第 16 回 CSW63 インターン派遣事業について	5
インターンへ ～先輩からのメッセージ～	6
インターンによる報告書	
1. はじめに・インターン名簿	8
2. CSW インターンシップ概要	9
2.1. CSW とは	9
2.2. 現地での活動	9
① サイドイベント、パラレルイベント	9
② Youth Dialogue	9
③ Consultation Day	10
④ 日本政府代表部によるブリーフィング	10
⑤ BPW の活動	10
3. 現地でのスケジュール	11
4. 特別イベント紹介	11
4.1. PRE CSW Youth Dialogue	11
4.2. NGO CSW/NY Consultation Day	12
4.3. BPW Clair Fulcher Dinner	13
4.4. 日本 BPW の皆さんとの交流	14
4.5. Youth Dialogue “Take the Hot Seat”	14
5. インターン個人報告	
5.1. 菊川琴美	15
5.2. 中尾佐織	19
5.3. 二木 恵	23
別添	
CSW インターンシップの手引き	29
2020 年 CSW64 派遣インターン募集要項	表 3

ご挨拶

認定NPO法人日本BPW連合会理事長 平松昌子

17年前。CSWの傍聴席で、延々と続く各国の代表演説を聞いていた私は、偶然隣り合って座っていた国際BPWのアントワネット会長と目が合った。

「ちょっとサボってお茶しない？」と阿吽の呼吸で二人して席を立ち、カフェに向かった。コーヒーを受け取って片隅に腰を下ろした時「・・・疲れるわねえ」が最初の言葉だった。そしてアントワネット会長は続けて言った。

「日本のBPWは、若い会員が増えてるの？」

「それがねえ・・・」と私。

「国連に関心をもつ若い女性っていないの？」

「関心を持つ若い女性はいますよ。でも普通の彼女らにとって国連は、異次元の世界、夢の世界、と思っているかもしれない・・・」

「それならBPWとして、彼女らに夢に触れる機会を提供しなさい。国連への通行証など必要な手続きはBPW本部ですから・・・」



その翌年から、CSWへのインターン派遣事業が始まった。以後、毎年数名の女性たち、多くが大学生だが、をCSWインターンとして早春のニューヨークに派遣し続けてきた。今回の派遣が第16回となる。だから、50人以上の女性たちをおくりだしてきたが、帰国後、海外で活躍している人たちも多い。去年はエジプトのカイロでFAOの職員として活躍している家田菜穂子さん(11回生)と出会えた。彼女たちが、国連の建物に入り、CSWという女性問題を討議する国連の会議を垣間見、そのために世界各国から費用をかけて集まってきた女性たちの息遣いを感じたとき、何を感じ取り、何を受け止めたか。その答えを彼女らが書き上げた報告書の中に読み取っていただきたい。

近年、CSWへの関心の高まりと共に、国連への通行証取得が難しくなり、若い世代を派遣する団体も増えた。日本BPW連合会としては、私たちのミッションとしてこの事業を継続していく。そのためには、各方面の応援が必要となる。今回も損保ジャパン日本興和の社員様からの経済的ご支援を受け、国連では事務局次長として活躍中の中満泉さんが若者との面談のために時間を作ってくださった。

この企画の提案者であるアントワネット会長(当時)は今も、折にふれ、この事業を支援し、若者へのエールを送り続けてくださる。

これからも多くの方のご支援をお願いしたい。

第 63 回 国連・女性の地位委員会（CSW63）について

採択された合意結論は、今の社会を読み解く鍵かもしれない

毎年、3月8日の国際女性デーが過ぎると、ニューヨーク・マンハッタン为国連本部周辺は、世界各地から集まるウーマンパワーで溢れかえる。女性たちが抱える問題を話し合う、国連の「女性の地位委員会」が開かれるためだ。

このCSWでは、毎年、北京行動綱領にかかれた12項目の課題のどれか一つを取り上げ、それがどこまで実現できたか、取り残されている課題は何かを話し合う。

今年、第63回の女性の地位委員会では、“Social protection systems access to public services and sustainable infrastructure for gender equality and the empowerment of women and girls”

「女性や少女の平等と権限保持を実現するために、利用可能な公共サービスや恒久的な社会的施設といった社会保障制度の制定」

が主要テーマと設定された。つまりジェンダー平等と（女性が差別を受けることなく）、女性のエンパワーメント（女性が権限を拡大できる社会）の実現に向けて、少女を含む総ての女性が利用できる公共サービスや公共施設について検討し、それを構築しようというものである。

ニューヨークに来てはじめて知ったことだが、NGOがこの主要テーマを巡って、活発な意見調整を行い、それを関係方面に予め提出していたことだ。今回採択された『合意結論の文言を読むと今の社会の問題を反映している』と思えるのは、その結果だと思う。NGO CSW NY(代表スーザン・オマリー)によれば、関係NGOの代表（約200）がNYで会合を重ね21項目にまとめた合意結論への意見書を、UN Women, CSW議長団、国連総会の第3委員会などへ提出したという。

議論の中では、テーマに使われた用語について、社会保障制度（Social Protection system）には、健康・教育・施設・法律・雇用と経済などの分野を含んでいるとの指摘や、女性のエンパワーメントなど「Women」として一言に括られているが、その言葉には、先住民、寡婦、離婚者、無国籍者或いは国内放置者、避難民、要保護者、証明書不所持者、非正規移民、その他悔悟を必要とする人、慢性的病気に罹っている人、知的・身体的障害者などがいることを認識すべきだとの意見が出たとされる。それにくわえて個人的意見を加えるなら、日本では『ジェンダー平等』や『女性のエンパワーメント』とかな書きのまま使われている言葉も『性別で差別されない』とか『女性の権限拡大強化』だとの言葉にするとわかりやすいと思うのだが。NGOは、合意結論の原案(ゼロドラフト)発表後も、いろいろな機会とルートを使って意見を提出した。

最終日に採択された合意結論の内容を簡単にチェックしてみよう。

1. 委員会は北京行動綱領などに則り・・・など通常通りの形で法的よりどころを述べつつ
2. 現状認識として、成果が上がっていることを認めるとともに、ハラスメントや暴力が生じていることを非難し、公共サービスや公共施設、特に交通機関での問題への認識を示している。更に、貧困や失業、社会保障制度の不備などの課題を認めただうで、貧困の女化、労働分野における男女格差の拡大、気候変動などの課題に重大な関心を払い、社会保障制度の重要制を強調した上で、

3. 今回のテーマである社会制度の充実等の必要性を認め、その対象となる課題として人権、健康、教育、労働と給与、交通システム、水、IT への関わり、家族、家庭での責任分担、など現代の世界にある問題点が幅広く指摘されている。

4. その上で国や地方行政、企業、市民団体が取り組むべき具体策を a ～sss まで 71 項目が取り上げられている。

大きく分けると以下の 5 つの分野になる。

・法的枠組みの整備＝人生、生活、福祉を実施するための措置など

この中には高齢者対策や介護などの無償労働も含まれる

・社会保障体制の整備＝貧困者への食事の確保や、生活保護など、更には災害時における人道的取り扱い、女性の労働市場への参入、育児への支援なども含まれる

・利用可能な公共サービスの強化＝自然災害や紛争時の社会サービス、幼児・学童等の保育、医療、医療費補助などを含む

・女性と少女に優しい社会施設(インフラ)の整備＝災害等での施設への女性の関わり、非 難を含む予報等の対策、決定権に関わる役割、女子教育への取りこぼし認められない妊娠出産への対応、など

・移動手段の整備＝女性が暴力を受けることのない公共交通の整備など

今回の合意結論は、皆で読んでみるのがいいかなと思いました。

サイドイベントチラシ（BPW を含む日本の N G O と日本政府代表部との共催イベント）



CSW63 Side Event, Japan

March 14th (Thu.) 11:30~12:45
Venue: CR11, GA Bldg. UN

A Room of One's Own in 2019

**Ideal social system for women's independence?
Join us and share your ideas!**

*Moderator: The National Women's Committee of the United Nations NGOs
Speakers: Japan, Switzerland, Thailand*

Co-sponsored by the Permanent Mission of Japan to the United Nations, Japan Women's Watch (JAWW),
The National Women's Committee of the United Nations NGOs, The International Women's Year Liaison Group (IWYLG)

RSVP: csw3ngosjp@gmail.com

インターン派遣事業について

CSW インターン派遣事業プロジェクトリーダー

林 智意

今年で 16 回目を迎えるインターン派遣事業だが、私が関わったのは CSW60 からなので、今回で 4 度目の NY となる。4 年間で連れて行った人数は 21 人。派遣されたときに社会人であったのはこのうちわずか 2 名。圧倒的に大学生がインターン派遣事業に参加しているのが現状である。時期が 3 月ということもあるだろう。興味があっても企業に勤めている女性では参加が難しいところである。

応募者数については昨年まで 20 名前後あったが、今年は 1 ケタ。就活の時期が変わり、学生の応募が極端に減少したようである。

BPW のインターン派遣事業は補助金が一切ない。若い女性にとってこの条件が厳しいのは百も承知である。しかしこれから社会の、そして世界の荒波に飛び込む彼女たちに身を持って体験してもらいたいことがある。それは「自分への投資」である。欲しいものを手に入れる。夢を叶える。目標を達成する。いずれもヒト、モノ、おカネが関わってくることを無視はできない。ではどのように手にするのか？ 本当に手に入れたいのか？ 本気なのか？ 自分のためにトコトン本気になってもらいたいのだ。

人によっては親にお願いすればポンと出してくれる家庭もあるでしょう。一生懸命アルバイト代を溜めなくてはならない人もいます。交渉をして借りる者もいるかもしれません。手段は人それぞれ、うらやむことでも自慢するものでもない、とにかく費用を自分で捻出することに大きな意味がある。

そしてさらに世界中からとんでもなく熱い思いを持った女性たちが、この期間国連に集まる。この体験はイヤでも刺激を受ける。2 週間という短い期間は思考、体力をフル回転させなくては乗り切れない。

今年の 3 人のインターンは NY で何を感じ、どんなものを持ち帰ってきたのだろうか。いずれにせよ、学んだこと、つながった人々はすべて自身の歩みの糧となる。自信を持って臆せず進んでほしい。そして歩みをあとに続くものに残してもらいたいと思う。



インターンへ ～先輩からのメッセージ～

＜せめぎあいの中から新たなものを生み出す力を＞

日本 BPW 連合会 国際委員長

布柴 靖枝

まずは皆さんお疲れ様でした。約 2 週間よく頑張られましたね。みなさんとゆっくり NY でお話しする機会はありませんでしたが、感性豊かに書かれた報告書を読んで、それぞれに積極的に、有意義に心、頭、からだをフルに動かしながら参加されたことがわかりとても嬉しく思っています。CSW にあつまる人たちの熱い想い、願い、そしてそれらのエネルギーを体感することは、どんなに本を読んでも、ネットで調べても体験できないことです。皆さんが CSW63 で体験したことを多くの人たちに是非とも自分の言葉で伝えてほしいと思っています。伝えることを通して、皆さんの学びをさらに深めることができるでしょう。

善の行動を行おうとするときに、それを打ち消そうとする動きも大きくなります。これらのせめぎあいの中で創造的なものが生み出されていくと思っています。皆さんが、これらの体験をどう生かし、これからどのように行動し、新たなものを生み出していくのかとても楽しみにしています。

CSW インターン制度の立ち上げ期から関わったメンバーの一人として、このように次々とバトンが次世代に渡されていく姿をみることができ感慨無量です。



＜全ての経験が生きることを信じて＞

日本 BPW 東京クラブメンバー

中山由美子

2 週間の国連体験、NY 滞在、おつかれさまでした。

初めての NY の方もいらっしゃる、見慣れない風景の海外で、イベントのお手伝いや各種イベントへの精力的な参加など、時間管理、体調管理も大変だったと思います。報告書もとても読み応えがあり、普通にはできない多くの経験を積まれ、且つ、それを咀嚼して、次に生かそうという気持ちが伝わってきました。

若い時には、「こんなこと」将来役に立つのかな、と頭をかしげながら時間を過ごすことがあります。CSW での体験は、「こんなこと」ということも含めて、刺激的な内容が多かった筈です。「こんなこと」も、刺激的なことも全て必ず将来、役に立ちます。得られた事は、思う事、遣りたい事、全てに有機的に繋がります。そういう時に、有効に、有益に、自分だけでなく、周囲も巻き込んで、遣るべき事に結んで、遣りたい事を実現してください。日本の将来は、皆さんのモノです。よりよくするために、その大きな力になる CSW の経験を活かしてください。それが出来る優秀な皆さんです。ご活躍を期待しています。



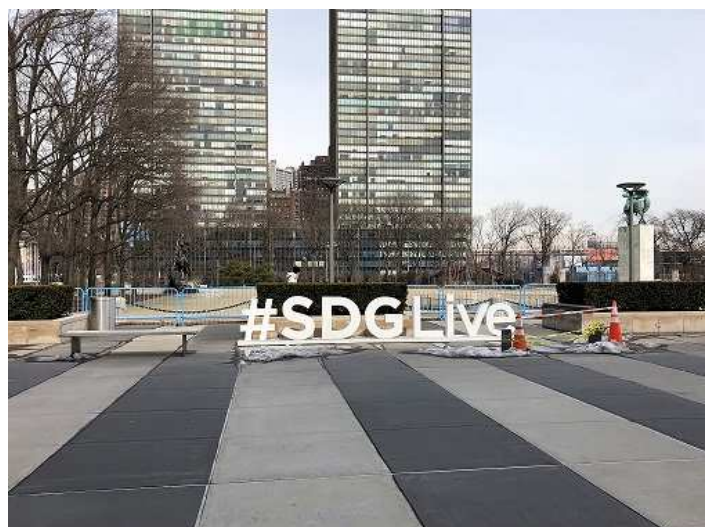
<早く行きたければ一人で行きなさい。遠くまで行きたければみんなで行きなさい>

日本 BPW 香川クラブメンバー

石浜実花

刺激的な時間を過ごせたことと思います。例え今はあまり身近でないことであっても、人生は様々な出来事の連続です。経験というものは、必ず役に立つ時がきます。インターンの皆様は BPW のメンバーにとって未来へのかけがえのない希望です。今回、何を得たかをしっかりとまとめ、どう将来に生かそうと思うか考え続けていきましょう。それは、自分・自分の周り・周囲の地域・日本の将来、そして世界を明るくすることに繋がります。

また、多くの出会いもあったかと思えます。BPW の先輩の皆様は、逞しく時代を生き抜いている女性ばかりです。これから、自分自身や周囲の方が自立して生きることについての悩みにぶつかった時、必ず力になってくれると思います。私自身も、その時にはしっかりとお役に立てるよう励みたいと思います。アフリカのことわざに「早く行きたければ一人で行きなさい。遠くまで行きたければみんなで行きなさい。」という言葉があります。何かをしようと思えば、やはり仲間が必要です。今こそ、志のある私たちのほうから社会に飛び込み挑戦していきましょう。そういった行動が求められているのだと思います。



インターンによる報告書

1. はじめに

この度は、第 63 回女性の地位委員会へのインターンに参加させていただき、ありがとうございました。BPW 連合会の皆様を始めとしたたくさんの方々のあたたかなご支援の下、我々インターン 3 名は 2 週間という限られた時間の中、国連という世界の流れの中心ともいえる特別な場所で様々な経験をする事ができました。一同心よりお礼申し上げます。以下、我々が現地での経験を経て特に印象に残った出来事や、自身が心に感じたことなどを皆様に少しでもお伝えできればと思います。

今後、我々 3 名は各々の目標に努めつつ、将来の BPW やインターン、ひいては次世代の女性リーダー育成のために尽力していく所存です。今後とも、どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

UN CSW63 インターン一同

インターン名簿（参加時の所属）

- 菊川琴美 （熊本大学理学部理学科 2 年）
中尾佐織 （福岡女子大学国際文理学部環境科学科 2 年）
二木 恵 （早稲田大学創造理工学部経営システム工学科 2 年）

左から中尾、菊川、二木



2. CSW インターンシップ概要

文責：二木

2.1. CSW とは

国連女性の地位委員会（CSW）は国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会で、政治、経済、社会、市民、教育分野における女性の地位向上に関して報告や提言を行う。ECOSOC はこれをもとに、国連総会に対して勧告する。CSW には、4 年の任期で、国連加盟国のうち 45 カ国（地域内訳：アフリカ 13 カ国、アジア 11 カ国、ラテンアメリカ・カリビアン 9 カ国、西ヨーロッパ他 8 カ国、東ヨーロッパ 4 カ国）が参加している。これら加盟国に加えて、CSW の年次総会には国連機関とともに ECOSOC 協議資格のある NGO 等も参加できる。年次総会では、その年の優先テーマを中心として女性の地位に関して討議を行い、その結果が合意結論にまとめられる。

今回は、この NGO 等の枠で参加が認められている日本 BPW 連合会のインターンとして、第 63 回 CSW 年次総会（2019 年 3 月 11 日～22 日）に参加した。第 63 回の優先テーマは「ジェンダー平等及び女性と女児のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラストラクチャーへのアクセス」だった。なお、合意結論（英語版）は次のサイトで閲覧できる。

<https://undocs.org/en/E/CN.6/2019/L.3>

2.2. 現地での活動

現地での主な活動は以下の 5 種類である。

① サイドイベント、パラレルイベント

期間中、「Side Event」「Parallel Event」と呼ばれる二種類のイベントが開催される。サイドイベントは各国の国連政府代表部または国連機関の主催によって基本的に国連本部ビル内で行われ、パラレルイベントは NGO 等の団体の主催によって基本的に周辺の会議室において行われるという違いはあるが、どちらも 1 回につき 1 時間 15 分で、ほとんどが一つ設定されたテーマについての有識者・関係者等によるパネルディスカッションおよび Q&A セッションである（内容面の例外として、たとえば映画放映がある）。4～8 名程度が登壇しモデレーターが 1 名つき、イベントの前半で発表や議論を行ったのち、後半にオーディエンスとの質疑応答が行われることが多かった。もちろんオーディエンスは NGO からの参加者だけでなく、政府関係者や国際機関関係者、学術関係者、学生など、多様な背景を持つ世界中から来た人々であった。サイドイベントだけでも多い日で 1 日に 50 以上開催されており（最初の週はイベントが多く、最後の数日となるとサイドイベントで 10～15 程度まで減る）、感覚としては 1 限～6 限ほどまで授業があり、同じ時間帯に複数の授業が行われているなかで、好きなものを聞きにいこうなものだった。

② Youth Dialogue

近年、UN Women をはじめとする CSW 関係者は若者の参画に力を入れているようだ。その代表例がこのユースイベントの実施であり、今回は 3 月 9 日、13 日、15 日の三度に分けて開催された。Youth Dialogue の主目的は、若者に対する啓蒙や若者同士の交流のほか、「Common Minimum Standards」の策定とされていた。Common Minimum Standards は社会保障制度、公益事業、持続可能なインフラに関して若者の声を反映させるための政策立案者に対するガイドラインであり、1 月～2 月の間にオンラインにて若者を中心とした参加者により下書きが作成され、9 日のイベントでも参加者による議論を行

った上で内容が確定・発表された。13 日の Youth Dialogue「High Level Intergenerational Dialogue “Take the Hot Seat”」では、政府関係者や国連関係者が出席して若者からの質問に回答し、15 日の「Youth Mobilization Spaces」ではジェンダー平等の推進への若者の貢献に関し戦略が議論された。私たちインターンは現地で 9 日、13 日の 2 つのイベントに参加した。内容の詳細は p.14 を参照されたい。

③ Consultation Day

NGO 枠の CSW 参加者を統括する NGO CSW の主催で行われる 1 日がかりのイベントで、NGO 向け開会式のような位置づけである。内容の詳細は p.12 を参照されたい。

④ 日本政府代表部によるブリーフィング

週に一度国連日本政府代表部（外務省）にて、CSW63 日本政府代表部より、合意結論の採択に向けた討議への参加にあたった日本の方針や議論の様子の共有があった。日本 BPW 連合会会員・インターンを含む CSW63 への日本からの参加者が出席し、質問をする機会を得た。

⑤ BPW の活動

BPW International(国際 BPW : IFBPW)主催の「Clair Fulcher Dinner」への参加、毎朝行われる NGO CSW 主催の「Morning Briefing」、日本 BPW の皆さんとの「ルームミーティング」や「食事会」が現地での主な活動である。内容の詳細は p.13 を参照されたい。

時系列順としては Pre-CSW Youth Dialogue → Consultation Day → サイドイベント（Youth Dialogue 含む）・パラレルイベント、週に一度、日本政府代表部によるブリーフィング、随時 BPW の活動、であった。

3. 現地でのスケジュール

文責：中尾

2019年3月8日～3月22日の参加期間中の主なスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
				8	9	10
				NY 到着 (昼頃)	・Youth Dialogue ・BPW/RM	Claire Fulcher Dinner (IFBPW)
11	12	13	14	15	16	17
開会式	M・BF ・中満国連事 務次長面談	M・BF ・政府代表 BF	M・BF	M・BF ・BPW/RM		
18	19	20	21	22	23	
M・BF ・BPW/RM	M・BF	M・BF ・政府代表 BF	M・BF	・合意結論 NY 出発 (昼頃)	帰国	

- ・BPW/RM：日本 BPW ルームミーティング
- ・IFBPW：国際 BPW (International Federation of BPW)
- ・M・BF：Morning Briefing(ブリーフィング) CSW63NY 主催
- ・政府代表 BF：日本政府代表部と NPO、またそのインターンが参加

4. 特別イベント紹介

文責：菊川

期間中に CSW のサイドイベント・パラレルイベント以外に参加したイベントについて紹介します。

4.1. PRE CSW Youth Dialogue

日時：3月9日午前9時～午後5時 場所：Global Initiative Collaborative

“Youth Dialogue”とは、CSW に参加する若者のために企画されたものです。このイベントの大きな目的は、最低基準の作成を通して若い女性をはじめトランスジェンダーや障害を持った人々の意見を合意結論に反映させることです。朝9時から夕方5時まで1日かけて行われ、パネルディスカッションや参加型ワークショップを通して女性・子供をはじめトランスジェンダーや障害を持った人々のための社会保障制度、公共サービス、インフラ制度の充実の実現に向けた解決策を探りました。

＜ワークショップ内容＞

参加者全員が数十人のグループに分かれ以下の 5 つのサブテーマについてディスカッションを行いました。各人が関心のある議論テーマを希望することができます。

Group 1: Social Protection systems for gender equality and empowerment of women and girls.

Group 2: Public services for gender equality and empowerment of women and girls.

Group 3: Sustainable infrastructure for gender equality and empowerment of women and girls.

Group 4: Technology for gender equality and empowerment of women and girls.

Group 5: Ensuring synergies for gender equality and empowerment of women and girls.

私たちはグループ 5 のディスカッションに参加し、どのように科学技術を利用してジェンダー平等と女性・子供のエンパワメントの促進を図ることができるかということについて議論しました。科学技術の解きほぐしから始まり 2 時間に渡って自由に議論が展開されました。特に議題となった内容は、GPS 機能付きスマートフォンやスマートフォンアプリを利用した女性や子供の身の安全の確保についてでした。また、科学技術の利用に対する規制や法律の設定などに女性が参加して意見を述べることの重要性を共有し、グループ 5 からの提案として文章にまとめました。各グループによる提案は“Common Minimum Standard”として一つの文章にまとめられます。同じ世代のヤングメンバーや NGO で実際に活動されている方々と共に議論に参加できたことは大変貴重な経験となりました。



パネルディスカッションの様子

4.2. NGO CSW/NY Consultation Day

日時：3月10日午前9時～午後5時半 場所：Borough of Manhattan Community College

このイベントは CSW 公式会議前日に NGO 団体により開催されました。Paprika という女性バンドグループによる力強い音楽とダンスで開演し、NGO 代表や UN Women 代表らによるパネルディスカッションを通して CSW 開催意義の共有、優先テーマについての理解を深めました。特に、今年の優先テーマに含まれていた女性と女兒のための社会保障の充実に関して現状の共有と課題解決に向けた取り組み等が紹介されました。

各国から多くの NGO 団体が出席するため、イベントを紹介し合い、互いに交流を深めることができます。イベントで配布された冊子にはパラレルイベントのスケジュールや、CSW に関する有用な情報がたくさん載っており CSW 期間中の必需アイテムとなりました。



パネルディスカッションの様子



Susan O'Malley さんによる welcome message

4.3. BPW Clair Fulcher Dinner

CSW63 の開催中に世界各国から集まった BPW メンバーとの夕食会へ参加させていただきました。アマニ会長をはじめニューヨークに集まった各国の BPW メンバーとの親睦を深め、ネットワークを広げる絶好の機会です。特に、ヤング BPW と交流できたことは大変貴重な経験となりました。BPW 入会に至った経緯や活動内容などについて各国のメンバーと話をすることができ、有意義な時間を過ごすことができました。参加者皆が 1920 年代のドレスコードに身を包み、ダンスをしたり写真を撮ったりと、とても楽しい夕食会でした。



参加していた BPW ヤングの皆さんと



日本 BPW のみなさんと一緒に

4.4. 日本 BPW の皆さんとの交流

現地滞在中には日本 BPW のみなさんとのルームミーティングに参加させていただきました。BPW の皆さんが準備してくれた心安ぐ手料理を囲みながら貴重なお話をしていただき、日本社会のジェンダーに関することから政治の話、お仕事のことなど多くのことを勉強させていただきました。人生の大先輩として将来のキャリアについての相談にも乗っていただき大変有意義な時間を過ごさせていただきました。



ルームミーティング中

4.5. Youth Dialogue “Take the Hot Seat”: A High level Intergenerational Dialogue

日時：3月13日 11時半～12時45分 場所：国連本部

このユースのイベントは、3月9日に開かれた第1回目のユースイベントで議論して作成した“Common Minimum Standards”（最低基準を定めた文章）を CSW63 合意結論に反映させるために開催されます。第1回目のユースイベントよりもさらに多くのヤングメンバーが集合し、これからの時代を担う若者が CSW に参加することの重要性を共有しました。開会での UN Women 事務局長やヤング代表による言葉の中で強調されていたのはジェンダー平等実現に向けて若者に寄せる大きな期待と若者の意見を反映させることの重要性でした。時間が限られていたため若者の議論を促すために事前に質問内容等が用意されており、代表として数人の NGO ヤングメンバーがその質問内容を読み上げた後、パネリストからの返答とオープンディスカッションが展開されました。



インターン個人報告

5.1. 個人報告：菊川琴美（熊本大学理学部理学科 2 年）

参加目的・背景

今回 CSW63 インターンに応募した動機は、社会人に近づきはじめるにつれて女性のキャリアや日本社会のジェンダーノームなどに対して興味と疑問を持つようになったこと、そして言語・文化、バックグラウンドも異なる世界中の人々が国連でどのように一つのテーマに沿って議論を進めていくのかについて興味があったからです。また、大学で出会った海外からの留学生との交流を通して多様な価値観や考え方に触れるうちに、今までの無意識的に当たり前だと思い込んでいた社会の様々な在り方を意識するようになったことも動機のひとつでした。ありがたいことに、BPW のメンバーである私の叔母が CSW インターンを勧めてくれたことがきっかけとなり応募させていただきました。

参加したサイドイベント（S）・パラレルイベント（P）一覧

日付	タイトル	主催者/会場	種類
3/11	Social Protection: sexual and reproductive health and rights of women and girls	United Kingdom /UN	S
	Social Protection: Making it work for families to achieve Gender Equality and the Empowerment of Women and Girls	The Gambia, Pakistan, Qatar and Family Watch Institutional /UN	S
3/12	Social Protection and Unpaid Care Work	Switzerland and OECD /UN	S
3/13	High Level Intergenerational Dialogue “Take the Hot Seat”	UN Women, UN SG’s Envoy on Youth, Girls Scouts and the Working Group om Girls, WAGGGS, AIESEC, World YWCA, AWID, WE, Restless Development, MenEngage Alliance, ACT Alliance, Rozaria Memorial Trust, FRIDA, Soul City Institute of Social Justice, Plan International, African Women Leadership	S

日付	タイトル	主催者/会場	種類
		Network, Afrika Youth Movement, Mexico Women with Disability Movement and the Youth Coalition /UN	
	HUDUMA MASHINANI: Accessing Public Services, Leaving no one behind	Kenya /UN	S
3/14	Social Inclusion for women being independent – A room of one's own in 2019	Japan, the National Women's Committee for the UN NGOs, the International Women's Year Liaison Group, and Japan Women's Watch (JAWW) /UN	S
	Girls Political Empowerment	Girls Learn International, Feminist Majority Foundation /4W43	P
	Gender-Responsive Social Protection Systems: It's a Human Right	JERA International, Asia Pacific Women's Watch (APWW) /4W43	P
3/15	Mainstreaming Gender in Humanitarian Response: Examples from Mali, Nigeria and Uganda	Switzerland, United Nations office for the Coordination of Humanitarian Affairs (OCHA), Gender Standby Capacity Project and Norwegian Refugee Council /UN	S
	No More Starving Artists: The Future of Dance Sustainability	H+ The Hip-Hop Dance Conservatory /4W43	P
3/18	Gender, Migration and Development Action in Africa: Case of Niger	Niger and NGO Kassai /UN	S
	Towards Gender-Responsive Climate Action	UN Women /UN	S
	Women's and Girls' Safety in Cities: Best Practices and Strategies for the Future	South Africa /UN	S
	The Road Ahead: Making Gender Parity A Reality	UN Women /UN	S
3/19	What Cultural Change is needed to consign Sexual Harassment to the Dustbin of History?	UN Women /UN	S

日付	タイトル	主催者/会場	種類
	Advancing Women's Legal Rights to Water	Women for Water Partnership, Environmental Law Institute(ELI) /Salvation Army	P
	Women Leaders and Decision Makers Across Cultures: Lessons from Psychology	The Social for the Psychological Study of Social Issue (SPSSI), International Association of Applied Psychology (IAAP) /Church Center for UN	P
3/20	Delivered by Women, Led by Men, A gender and equality analysis of the global health workforce	World Health Organization (WHO), International Labour Organization (ILO), Government of France, Republic of Niger and Women in Global Health /UN	S
	Gender and Science, Technology and innovation: UN Initiatives	International Telecommunication Union (ITU), World Intellectual Property Organization (WIPO), UNESCO and United Nations Department of Economic and Social Affairs (UN DESA)/UN	S
	What drives the Gender Gap in Science, technology and innovation and how do we close it?	UNESCO, Permanent Mission of Finland and GenderInSITE /UN	S
3/21	Advancing Women's Health and Well-Being across the life course: Focus on Non-Communicable diseases (NCDS) and universal health coverage	Co-sponsored by Jamaica, Thailand; World Health Organization UN, New York; International Council of Women (ICW-CIF) and others /UN	S
	Empowerment, Engagement and Leadership Throughout Civil Society	UN Democracy Fund /UN	S

CSW63 で得られたもの

・世界中の活動家たちから刺激を受けた

サイドイベント、パラレルイベント、ユースダイアログなどのイベントに参加して最も印象を受けたのは、ヤングメンバーを含めた NGO 団体の多くの人々が「自分が社会を変えていくのだ！」という強い意志と情熱を持ってジェンダー平等に向けて活動している姿でした。特に、世界の若者たちが問題克服のために自ら声を上げて活動している姿には圧倒されましたが、今後自分にも取り組めることを見つけてみたいという思いが芽生え大変刺激を受けました。CSW 全体を通して痛感したことは自分の考えをしっかりと持っていることを前提として、それを他人

に伝える力（英語力はもちろん、積極性、プレゼン力、話す力、まとめる力などのアウトプット力）が国際的な意見交換の場や議論の場において重要であるということです。また、日ごろから世界の動向、社会のシステムなどについての関心を高め、自分なりの意見を持ちつつ柔軟に他人の意見を受け入れることの大切さも身をもって学びました。

・中満泉さんに会って話を聞いたこと

日本 BPW の皆さんがインターンに与えてくださった貴重な機会の一つに国連事務次長・軍縮担当上級代表を務められている中満泉さんとの面会がありました。林さんをはじめ BPW インターン 3 名、他 NGO から 2 名、日本政府ユース代表 1 名、外務省の方 1 名とともに中満さんにお会いして各自事前に準備しておいた質問をさせていただきました。多忙なスケジュールをこなされているにも関わらず当初の 15 分間の予定を 40 分近くまで伸ばして私たちの質問にひとつずつ丁寧に答えてくださいました。私が尋ねた質問の内容は「グローバルリーダーに必要な資質とは何か。」というもので、中満さんが答えてくださった理想とするグローバルリーダー像は次の 4 つです。

- ① チームワークを上手に機能させる。
- ② 大きなビジョンをもつ
- ③ 勇気をもつ
- ④ 弱い人の立場を考えられる人

これら 4 つのグローバルリーダーに求められる資質はジェンダー平等の実現のためや、SDGs 目標達成のために活動する人たちに対しても求められる資質ではないかと思います。日本社会で SDGs の認知は良好に進んでいる印象を受ける一方で、未だに日本のジェンダー平等が改善されていない状況を打破するためには、若者たちが諦めないこと、そして自分たち自身で社会を変えられるという意識を持つことが重要であるということを改めて感じました。「優秀な女性が活躍できないような今の社会のままでは国が潰れてしまう。女性が変わらないと危険！若い人たちに是非変えてもらいたい。」という中満さんの言葉は大変印象に残りました。

・国際情勢に対する意識の向上

国連へ足を運び国際規模の議論の場を経験したことで、国際会議やジェンダー問題に対する意識が向上し、世界の情勢に対する関心も高まりました。パラレルイベントやサイドイベントを通して今まで知らなかった世界のジェンダー問題について新たに学んだり、私が将来携わりたいと考えている環境問題を中心に取り組んでいる団体の存在を知ることができたのも大きな実りとなりました。

・言葉の力・言葉を駆使する能力・言葉の使い方の重要性を学んだ

考えやアイデアをその場にいる世界中から集まった人々に届かせるためには、英語運用能力はもちろん、言葉の使い方や話の仕方も大きな影響を与えているに違いありません。政治家は言葉が命ともいわれるように、人々を動かす力がある人の言葉の運用能力は高いということを実感しました。“Gender”の単語のように考え方によって定義が異なる場合もあり、国際規模での議論の難しさと、一つ一つ言葉を厳選して適切な表現をすることの重要性を学びました。

全体の感想

今回の CSW63 インターンで得られた発見や知識はかけがえのないものになりました。世界中の活動家が女

性・女兒のエンパワメントに取り組んでいる姿に大変刺激を受けたのはもちろんのこと、国際規模の議論が進められていく過程を実体験することができたのはまたとない貴重な経験でした。ジェンダーに関する各国の現状や抱える問題は同じではないにしろ、世界中から集まった活動家たちが情報を共有し合い、提案し合い、励まし合いながら“Gender Equality”の達成を目指している姿からは、「自分たちの力で社会を変えることができるのだ」という強い信念と情熱が感じられます。そして、いかにジェンダー平等を身近な問題として捉えて勇気を持って行動に移すことができるかということは今後の私の大きな課題の一つとなりました。これはジェンダー問題に限らず SDGs の 17 項目すべての達成においても等しく求められていることであるのは言うまでもありません。CSW63 で活躍していた女性達の後を追うべく、このインターンで得た経験をさらに価値あるものにしていくために、帰国後に予定されている BPW のイベントや他の NGO 団体とのイベントへ積極的に参加していきたいと思っています。また、私が通う大学にて報告会等を開くことでより多くの人に SDGs や CSW、ジェンダー問題への関心をもってもらいたいと考えています。最後となりましたが、貴重な機会を与えてくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



左から、中尾、菊川、二木

5.2. 個人報告：中尾佐織（福岡女子大学国際文理学部環境科学科 2 年）

参加した理由

このプログラムに参加を決めた理由は主に 2 つありました。1 つ目は国際連合がどういった場所かこの目で見てみたかったからです。私は学科の名の通り環境問題に関心があり、以前から特に国連環境計画(UNEP)に興味を持っていました。国際連合では多くの国から様々な人々が集まり、いくつもの社会問題について議論をし、時には一つに意見をまとめなければいけません。少人数でもそれぞれ意見の違う人間同士であるにも関わらず、それを個人間にとどまらず国と国との間で話し合いを進めていく場所がどんなところか知りたかったです。2 つ目は、大学に入学後ジェンダー問題に関しての講義を受け、これについてもっと知識を深めるとともに自分自身のジェンダー問題に対する考えを深めたかったからです。大学では主に日本での女性問題、育児・家事によるキャリア中断やアンパイドワークなどの問題について習いました。また、世間でも医学部入試不正問題や職場でのセクハラ問題などのニュースをよくメディアで目にし、なぜ日本は未だ女性軽視の風潮が続いているのか疑問に持ちました。ほかの国も同じような問題を抱えているのか、またこの自分が見聞きするもの以外でジェンダー問題はどのように猛威を振っているのか違う視点からこの問題を見つめなおしたいと思いました。

参加したサイドイベント (S) ・パラレルイベント (P) 一覧

日付	イベント名	主催者	種類
3/11	Access to STEM education and infrastructure careers for women and girls in New Zealand and the Pacific Islands	New Zealand and New Zealand Human Rights Commission (NHRI)	S
	Social protection and unpaid care work	Switzerland and OECD	S
3/12	Gender Budgeting: Re-shaping Resources in support of Equality Goals	Ireland and Uganda	S
	Women's Future, Empowerment by Sustainable Development	Business and Professional Women Spain	P
	Women at the Table! Transformative change-Women shaping the agenda of peace, traditional justice and political agreements	The Office of the Prime Minister and Ministry for Foreign Affairs of Iceland, UNU-Gest	S
3/13	Social inclusion for women being independent-A Room of One's Own in 2019	Japan, the National Women's Committee for the UN NGOs, the International Women's Year Liaison Group, and Japan Women's Watch	S
	Will we reach the gender-related SDGs? The impact of laws and social norms	Austria and OECD Development Centre	S
	Inclusive Early Education Work-Life Balance and Women's Empowerment	Denmark	S
3/14	The Right to Social Security for Unpaid Care Workers	Permanent Mission of Mexico	S
	The Road to 2020: Accelerating Action on Women, Peace and Security before the 20 th Anniversary of 1325	UN Women	S
	Breaking Stereotypes: Muslim Women as Agents of change	Pakistan, Turkey, Iran and Indonesia	S
3/17	Gender, migration and Development action in Africa: case of Niger	Niger and NGO Kassai	S

日付	イベント名	主催者	種類
	Towards gender-responsive climate action	UN Women	S
	Silver Linings: Social Protection and Empowerment of Aging Women	Philippines	S
3/18	What cultural change is needed to consign sexual harassment to the dustbin of history?	UN Women	S
3/19	Delivered by Women, Led by Men: A Gender and Equity Analysis of the Global Health Workforce	WHO, ILO, Government of France, Republic of Niger and Women in Global Health	S
	Exploring the Journey of Women Peace and Security: Lessons and Opportunities from the Global South	South Africa	S
3/20	Women's Reproductive Health and Breast Cancer Risks in Conference Room12-GA Building	Samoa and Endeavour Forum Inc.	S
	Social Protections for Women, Girls and All Those with Down Syndrome(in commemoration of the international Down Syndrome Awareness Day)	Permanent Observer Mission of the Holy See to the UN and Center for Family and Human Rights	S

感想

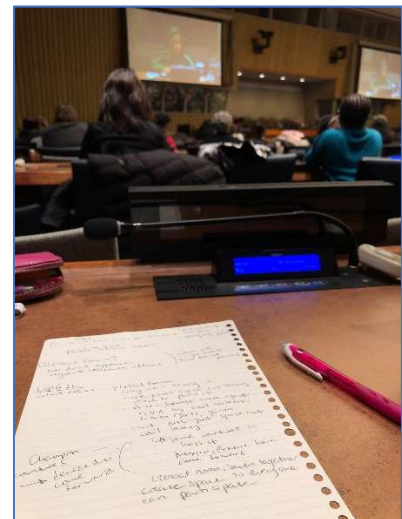
この2週間、とても濃い時間を過ごすことができました。この短い期間の中で特に印象深かったことが3つあります。1つ目は、他国の方々のジェンダー問題に対する思いの強さです。3月9日に Youth Dialogue という若者向けの CSW イベントに参加したのですが、会場全体からこのジェンダー問題の現状を変えようとする力強い熱気を感じたことをよく覚えています。サイドイベントで様々な国が直面している女性問題について聞くことができましたが、地域によって抱えている課題は異なりつつもみな共通しているのは、やはりもっと女性の力を社会に発信していこうとする向上心を広めることにあると思いました。そのまま現状に妥協して何もしないままで終わらない、自分たちで世の中を変えていくという強い思いがいたるところで感じられる2週間でした。2つ目は、日本 BPW 連合会の方々ととのルームミーティングです。連合会の方の泊ったホテルに集まり、何度か夕食をご一緒させていただく機会がありました。そこでは連合会の方々の今までの人生について、日本の女性問題への思いなど、普段あまり聞けないような個人的なお話を聞くことができました。また、私たちインターンも自身の女性問題への思いや今後のキャリア形成について自分たちの考えを話すこともあり、インプットだけでなくアウトプットもすることでさらにプログラム全体について理解の深まった時間でもありました。連合会のみなさんは常に親身に接していただき、過度に緊張することもなく、落ち着いて CSW63 に参加するためのサポートをしていただきました。本当に感謝しています。3つ目は、国際連合事務次長・中満泉さんとの座談会です。初めは15分ほどしか取れない

と言われていましたが、結局 1 時間ほどお時間を割いていただきました。恥ずかしながら座談会があるまで私自身、中満さんを存じ上げなく、そんなに地位の高い方とはどんな方なのか、楽しみ 2 割・緊張 8 割な心境で座談会に挑みました。実際お目にかかるのととても落ち着いた印象で、座談会に出席した私たちの質問も 1 つ 1 つ丁寧に答えてくださる優しいお方でした。どの質問に対する返答も、それぞれ言葉に重みがあり、メモをする手がなかなか止められませんでした。また言葉の端々から、人をまとめる立場としての静かな力強さも垣間見ることができ、まさについていきたいと思われるような人柄をお持ちの方だと実感しました。

今回 CSW に参加して、やはり男性の参加者が圧倒的に少ないことが気になりました。サイドイベントで LGBTQ のテーマのものだと男性も多くいた様子でしたが、なかなか女性の不平等さに強くフォーカスしたものとなると参加しづらく感じる部分もあるかもしれません。私は何もかも男女 50:50 にする必要はないと思っています。ある職業になりたい人を男女別で分けた時にどちらかに偏っていたとしてもそれは何の問題もないと思います。しかし、その偏りが「女性だから」「男性だから」という性別によって生じたものであったとしたら、とてももったいないと思います。個人のなりたい姿が性別によって左右されることがあってはいけません。ただ、この CSW は女性問題のみにフォーカスしたもののため、男性が参加しづらい面もあるかと思っています。確かに私の今まで生きてきた中で、女性が軽視されやすいことを実感する場面がいくつもありました。私の家系自体、男尊女卑の風潮を思わせるような言動が多々見受けられましたし、外に出ても自分が女性だから起きたと感じた出来事も経験しました。しかし、男性も男性で常に「男らしく」生きることを要求され、実際に自殺率は女性よりも男性の方が高くなっている現状があります。私も度あるごとに「女性らしく」あることが善とされる場を息苦しく思いました。今後は男女も LGBTQ もみんな揃って話し合いができる場がさらに増えていけばいいなと思います。女性だけで団結しても、男性の力なくては本当のジェンダー平等に近づけません。これからはこの 2 週間で学んだこと、また自分の考えについてもどんどん周囲に発信し、CSW63 の中でもたびたび出てきた「コミュニティ」の輪を広げていくための活動を自分なりに試行錯誤しながら作り上げていきたいです。



サイドイベントの様子



期間中、ノート何十枚分ものメモを取った

5.3. 個人報告：二木 恵（早稲田大学創造理工学部経営システム工学科 2 年）

参加した理由

5 年ほど在住した米国から日本に帰国し、男女間の明確な壁や「女子力」という言葉などに疑問を抱いた高校 1 年生のときから、ジェンダーについて少しずつ勉強するようになった。しかし、大学に入学し本物の社会に触れ始めるようになり、それまで本を読んだり、話を聞いていて憤りを感じていたような事柄に実際に面したときに、それに抗うことができない自分に気がついた。また、高校時代に模擬国連活動に取り組んだ経験から、国連の活動に常に興味を持っていた。その中で、国連が語る理想と、必要な変化が起きない現状のギャップも意識するようになった。これらのことから、フェミニズムが価値ある社会変化を生むまでの過程を活動家やリーダーから学ぶ、特に、ジェンダー平等の概念に興味を持たない人が少なくない日本の環境の中で効果的な対話を行うためのヒントを得ることを目的として、CSW インターンシップに参加した。現地でサイドイベントやパラレルイベントに参加するにあたっては、先進国や UN Women をはじめとする国際機関が主催していたり、いまの日本に直接的に深く関係がありそうだったりするものを中心に選択することにした。

参加したサイドイベント（S）・パラレルイベント（P）一覧

日付	タイトル	主催者	種類
3/12	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	CSW63 Townhall Meeting of Civil Society and United Nations Secretary-General António Guterres	Executive Office of the United Nations Secretary-General and UN Women	S
	The Gender Effect of Leave and Care Policies – stronger dads involved!	Prime Minister of Iceland and the Nordic Council of Ministers	S
3/13	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	High Level Intergenerational Dialogue “Take the Hot Seat”	UN Women 他	S
	Gender Budgeting: Re-shaping Resources in Support of Equality Goals	Ireland and Uganda	S
	Women at the Table! Transformative change – Women shaping the agenda of peace, transitional justice and political agreements	The Office of the Prime Minister and Ministry for Foreign Affairs of Iceland, UNU-Gest, and Höfði Reykjavík Peace Centre	S
3/14	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S

日付	タイトル	主催者	種類
	Social inclusion for women being independent – A Room of One's Own in 2019	Japan, the National Women's Committee for the UN NGOs, the International Women's Year Liaison Group, and JAWW	S
	Journalism and the empowerment of women: new challenges in the digital world	Lithuania, France, Member States of the Group of Friends for the Protection of Journalists, Reporters Without Borders 他	S
	Data on Women in Politics: Getting to Equal?	International-Parliamentary Union (IPU)	S
3/15	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	Women Investigating in Peace	Sri Lanka and Kenya	S
	EQUALS in Tech: Taking Stock of the State of Gender Digital Equality – Launch of EQUALS Research Group's Inaugural Report	International Telecommunication Union (ITU) and United Nations University (UNU)	S
	The Road to 2020: Accelerating Action on Women, Peace and Security before the 20 th Anniversary of 1325	UN Women	S
3/18	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	Gender, Economic Policy and Women's Human Rights: Tackling discrimination to Strengthen Social Protection, Increase Access to Services and Transform Systems	Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights (OHCHR)	S
	A Way Out of No Way: Women, Leadership, and Equality	American Psychological Association and International Council of Psychologists	P
	The Road Ahead: Making Gender Parity a Reality	UN Women	S
3/19	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	Personal Stories of Women's Journey to Leadership	Nauru	S
	What cultural change is needed to	UN Women	S

日付	タイトル	主催者	種類
	consign sexual harassment to the dustbin of history?		
	Empowering in Emergencies: A conversation with frontline responders to gender based violence	Ireland and the Irish Consortium on Gender Based Violence (ICGBV)	S
3/20	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	Launch of Strategy on Equality in Law for Women and Girls by 2030: A Multi-stakeholder Strategy for Accelerated Action	UN Women, African Union, Commonwealth, Inter-Parliamentary Union (IPU), and Organisation Internationale de la Francophonie and Secretaría General Ibero-Americana	S
	Gender and Science, Technology and Innovation: UN initiatives	International Telecommunication Union (ITU), World Intellectual Property Organization (WIPO), UNESCO, and UN DESA	S
	What drives the gender gap in science, technology and innovation and how do we close it?	UNESCO, Permanent Mission of Finland, and	S
3/21	Informal NGO Morning Briefing	NGO Committee on the Status of Women	S
	Women's Equality and Empowerment Advances the Culture of Peace	Permanent Mission of Bangladesh Global Movement for the Culture of Peace	S
	MEET THE AUTHOR OF "How Dare the Sun Rise: Memoirs of a War Child" Sandra Uwiringiyimana In discussion with Ms. Nanette Braun, Department of Global Communications	UN Bookshop	S
	Empowerment, Engagement, and Leadership Through Civil Society	UN Democracy Fund	S

参加したイベントについて

・Youth Dialogue

① Pre CSW-consultation (3月9日)

ムランボ＝ヌカ UN Women 事務局長をはじめとする 8 名のパネリストによるディスカッションを聴講したのち、午後には、私たちもグループに分かれてディスカッションを行った。「Technology」がテーマのグループに参加したところ、南アフリカ、台湾、ガーナ、インド、イギリスなど多様な地域出身の 15 名ほどの参加者のひとりが、午前の登壇者であり、今年 NGO CSW/NY 2019 Women of Distinction Award を最年少で受賞した Gharsanay IbnulAmeen 氏であった。また、ファシリテーターはジンバブエの活動家で、12 日のイベント“CSW63 Townhall Meeting of Civil Society and United Nations Secretary-General António Guterres”ではグテーレス国連総長に対し VISA に関する質問をして会場から拍手喝采を受けていた。このような人たちと同じテーブルにつき、意見や経験を簡単にでも聞ける貴重な機会であった。

私たちのグループでは、1.Ethical technology の推進 2.グリーンインフラの整備と技術へのアクセス向上 3.テクノロジーの多様性 を三本柱とする意見をまとめた（正確には、UN Women 職員の女性がテーブルについていて、私たちが好き勝手に話している内容を巧みにまとめてくれた）。私は 3 に関して、テクノロジーに関する多様性は利用者や規制者だけでなく、生産者の現場でも達成される必要があるという意見を述べ、文章に反映してもらった。

② High Level Intergenerational Dialogue “Take the Hot Seat” (3月13日)

こちらは、机付きの席には人が収まらないほど大勢の参加者がおり（人数制限で参加できなかった人もいたようだ）、さらに質問者がほとんど全員指定されて質問も用意されていたイベントだったため、私たちは基本的に話を少し遠くから聞いているのみという形だった。とはいえ、他のイベントでも何度も見かけたネyson CSW63 議長をはじめとした登壇者がジェンダー平等の達成やユースの参画について語る様子からは、強い情熱と真剣さを感じられた。ネyson議長は、自身も会議にて“Common Minimum Standards”について何度か言及していること、そして若者はそれぞれの出身国の代表部に対して同 Standards の活用を促すべきであること（エレベータートークをすること！）を折々で強調していた。このような場で熱意あるリーダーたちの話を聞いていると、私自身行動に駆り立てられるような気持ちになったし、周りの若者も同じように感じていることが伝わってきた。

・日本政府代表部によるブリーフィング

代表部からの報告によると、合意結論の作成に当たっては、人権意識の強い欧米諸国などと、イスラム圏の国やロシアなどとの間で、主に性と生殖に関する文言や“gender”という一単語の使い方さえを巡って何時間も熾烈な交渉が行われていたとのことだった。また、日本として中心的に重要性を強調するポイントの一つは日本が進んでいる分野でもある Universal Health Coverage であるとのことだった。以上の報告を踏まえて、私が 20 日の二度目のブリーフィングで出した質問は次の二つである。

1. ユース向けイベントを含めイベントでネyson議長をはじめとする関係者の話を聞くと、たとえ建前だとしても女性の地位向上への純粋な熱意を感じるが、実際の交渉の場面ではどうか。その中で、日本はどのように存在感を示しているのか。

2. ① ドラフトの Universal Health Coverage に関する文言では、女性の生殖に関する Universal Health Coverage、たとえばスティグマの解消や値段を含めたアクセシビリティの重要性なども強調されている。たとえば緊急避妊薬が市販されていないなど日本ではこのような点を達成しているとは言えないと思うが、そのこととこの文言に同意する整合性はどのように取るのか。② 単語レベルで熱い議論があるとのことだが、少なくとも方針や建前として、日本も単語レベル・パラグラフレベルで合意結論を持ち帰るという考えで会議に参加しているのか。

単語には大きな解釈の余地があるという立場を取っているなどの回答や、把握できた参加の体制からは、いまの状況の中で日本政府が CSW を通して大きなインパクトを与えたり得たりすることの構造的な困難さを実感したと同時に（代表部の方々もハードスケジュールの中お時間をいただけるだけでありがたいことである）、根本的には、日本で女性の地位が低いままであり続ける理由と同じようなものを感じた。

所感

正直なところどのような内容と収穫を予想すべきか不明瞭なまま 2 週間の参加に向けた準備をする過程の一部で、たとえば Twitter 上の議論を深く追ってみたり現代思想のジュディス・バトラー特集を読んだりもした。当然ジェンダー学はひとつの学問領域で、経営工学専攻の私は門外漢で知識不足だから、色々読んでいくと気が遠くなってくる。もういいやと切り上げて荷造りに専念し、降り立った久しぶりのニューヨークで経験したのは圧倒的な「現場感」であった。

2 週間のうち、多くの稼働時間はサイドイベントにて過ごしたが、このサイドイベントは私の当初の予想に反し、事前知識を求められる場所でもなければ、講義・講演のように多くの知識をその場で身に付けるための場所でもなかった。登壇者のバックグラウンドも、オーディエンスのバックグラウンドも、扱うテーマもあまりに多様なので、そのようなことは不可能だったのだ（仮に一分野の専門家であったとしても、期間中は様々なイベントに参加するのである）。実際に、少なくとも趣旨としてはある程度専門性の高い交流が期待されていただろう Q&A の時間において、本質的な議論が交わされる場面はかなり稀だったと感じる（余談だが、私が最も内容が濃く興味深い Q&A セッションを見られたのは公式度が下がるパラレルイベントにおいてだった。本当に興味がある人ばかりが参加していたのかもしれない）。そもそも、1 時間 15 分の枠で 4 名ほどが登壇する時点で、深い議論は困難だとも言える。

では、サイドイベントの価値は何か。私が見出したのは次の二点である。1、課題を知るきっかけであること。たとえば、それぞれの分野について、最新のデータの内容をじっくり学ぶ機会ではなく、そのデータの存在を知る機会をサイドイベントは提供している。私自身、いくつもの興味深いデータに出会い、勉強への意欲が大いに湧いた。2、何よりも、エネルギーを共有する場であること。

エネルギーとは、活動が目に見える成果につながって、人が救われたり活動家本人の自己実現になったりしている例に数多く出会うことである。あるいは、社会運動を行うにあたって実践的で汎用性の高い手法が共有されることである。文字通り世界中から人が集まって国連という場で議論をするということ自体も、女性の地位の重要性を強調するエネルギーである。不公正が存在している、苦しんでいる人がいる。その状況を改善したい。参加していた誰もが根本的にはそのようなシンプルな純粋な動機で行動していたように感じた。当事者である生身の人間が（その場に、あるいはその場で語られるストーリーの中に）いる CSW は「現場」であった。現場はエネルギーを生むものであり、エネルギーを必要とするものである。エネルギーは、絶大なインスピレーションだ。

（当事者を前にして、その経験の否定と捉えられかねない発言はできないし、同じ分野の専門家が集まっているわけではない以上、理論より実践が圧倒的に優先されるのは趣旨から見ても当然のことである。ただ、「女性

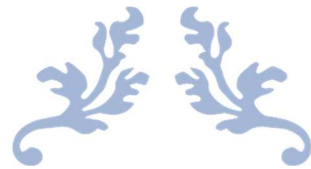
こそがすごい」「コミュニケーション力に長けている女性がいてこそ全てがうまくいく」などのような発言がある度に拍手喝采が起きていたことは、女性ばかりの会場で驚きではなかったが、違和感を覚えたのは事実だ。）

これから面する困難はきっと数あれど、少なくとも現時点までは、理系として大学に進学することを支援してもらい、好きなことをさせてもらっている。私は（幸せなことに）いわば泡の中で暮らしていて、正直そこを抜け出す努力もできていない。そんな私が世界中の活動家と同じ部屋、同じエネルギーの中にいられたのは、ひとえに日本 BPW 連合会の皆様のおかげである。深い謝意を示すとともに、時間が掛かってでも、行動、私なりの現場に学びを還元する責任を感じる。（Man Up という団体の代表やメンバーと多少親しくなり、連絡も取るようになった。この代表が UN Women とつながっていて、もともとユースイベントの立役者だったらいい。この出会いをいつか活かせると嬉しい。）

あまりにも多様な参加者をつないでいた唯一の軸、すなわち、不公正に怒り変化を追求する純粋で熱い思いこそ、日本にもっと必要なものではないだろうか。そして、そのような思いがキャッチーに存在し、キャッチーに解決されていることもあるらしい他の国と日本は何が違うのだろうか。私には何ができるのか、私は何がしたいのか…。この文章を書いてなお、私の感想も今後の指針もまとまりきってはいないが、所属する社会をより良くするために何ができるか考え続ける決意と、お世話になった皆様への心からのお礼をもって、私からの報告といたします。ありがとうございました。



3月10日 コンサルテーションデーの会場にて（左から 二木、中尾、菊川）



CSW インターンシップの手引き

概要と生活アドバイス



二木 恵（2019 年 CSW インターン）

作成日：2019 年 3 月 23 日

更新日：2019 年 4 月 16 日

この手引きについて

この手引きは、CSW インターンシップの概要をまとめることにより、派遣生の現地での活動を円滑化することを目的として、2019 年派遣生である作成者が任意で作成したものです。私自身、渡航前の時点で情報が少なく不明点が多かったこと、私は米国在住経験がありますが、そのようなメンバーが必ず参加しているとは限らないことを踏まえ、インターンシップの内容から生活に関する事柄まで、基礎的な情報を挙げるので、後輩となる派遣生にあくまで参考程度に活用していただければ幸いです。

目 次

CSW とは

現地で何をするのか

- サイドイベント、パラレルイベント
- Youth Dialogue
- Consultation Day
- BPW としての活動

現地でのスケジュール例

生活について

- お金
- ホテル選び
- 飲食
- 洗濯
- 移動
- Wi-Fi
- チップ
- 時差

観光・お土産

持ち物

CSW とは

国連女性の地位委員会（CSW）は国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会で、政治、経済、社会、市民、教育分野における女性の地位向上に関して報告や提言を行う。ECOSOC はこれをもとに、国連総会に対して勧告する。CSW には、4 年の任期で、国連加盟国のうち 45 カ国（地域内訳：アフリカ 13 カ国、アジア 11 カ国、ラテンアメリカ・カリビアン 9 カ国、西ヨーロッパ他 8 カ国、東ヨーロッパ 4 カ国）が参加している。これら加盟国に加えて、CSW の年次総会には国連機関とともに ECOSOC 協議資格のある NGO 等も参加できる。年次総会では、その年の優先テーマを中心として女性の地位に関して討議を行い、その結果が合意結論にまとめられる。

このインターンでは、NGO 等の枠で参加が認められている日本 BPW 連合会の一員として CSW の年次総会に参加する。

現地で何をするのか

もちろん日本政府代表部として参加する訳ではないから、実際に参加するのはイベントのみである。以下に紹介する 5 種類が、現地での主な活動である。時系列順としては Pre-CSW Youth Dialogue → Consultation Day → サイドイベント（Youth Dialogue 含む）・パラレルイベント、週に 1 度日本政府代表部によるブリーフィング、そして随時 BPW の活動、である。

○ サイドイベント、パラレルイベントへの参加

CSW 期間中に国連本部ビル内や周辺の会議室で開催されるサイドイベント・パラレルイベントは、ほとんどがパネルディスカッションであり、参加者は任意のイベントにて聴講することができる（例外として、たとえば映画の放映がある）。サイドイベントは、国連機関またはどこかの国の国連政府代表部が主催者のひとつとなっているもので、基本的に国連本部ビル内で開催される。パラレルイベントは NGO やその他の団体によって開催されることが多く、国連本部ビルの外、近くの建物で開催される。サイドイベント・パラレルイベントは 1 時間 15 分で、サイドイベントだけでも多い日で 1 日に 50 以上開催されている（最初の週はイベントが多く、最後の数日となるとサイドイベントで 10～15 程度まで減る）。感覚としては 1 限～5 限または 6 限まで授業があり、同じ時間帯に複数の授業が行われているが、そのうち好きなものを聞きにいくようなものである。

イベントの内容は前述のとおり基本的に 4～8 名程度が登壇しモデレーターが 1 名つくパネルディスカッションで、1 時間 15 分のうち最初の半分はパネリストによる発表、後半はオーディエンスとの Q&A セッションであることが多い。オーディエンスは NGO からの参加者だけでなく、政府関係者や国際機関関係者、学術関係者、学生など、多様な背景を持つ世界中から来た人々であった。

日本政府代表部もサイドイベントを主催しており、その一つを手伝うことになる。

サイドイベントの一覧は事前に UN Women から送られてくるリンクまたは **CSW 公式アプリ**から、パラレルイベントの一覧は Consultation Day でもらえる NGO CSW のハンドブックまたは **NGO CSW 公式**

アプリから確認できる。

○ Youth Dialogue（必須）

近年、UN WomenをはじめCSW関係者は若者の参画に力を入れているようだ。その代表例がこのユースイベントの実施であり、今回は3月9日、13日、15日の三度に分けて開催された。Youth Dialogueの主目的は、若者に対する啓蒙や若者同士の交流のほか、「Common Minimum Standards」の策定とされていた。Common Minimum Standardsは社会保障制度、公益事業、持続可能なインフラに関して若者の声を反映させるための政策立案者に対するガイドラインであり、1月～2月の間にオンラインにて若者を中心とした参加者により下書きが作成され、9日のイベントでさらに参加者による議論を行った上で内容が確定・発表された。13日のYouth Dialogue「High Level Intergenerational Dialogue “Take the Hot Seat”」では、政府関係者や国連関係者が出席して若者からの質問に回答、15日の「Youth Mobilization Spaces」ではジェンダー平等の推進への若者の貢献に関し戦略が議論された。私たちの場合は現地で9日、13日の2つのイベントに参加した。

申し込みは事前にUN Womenから送られてくるメールを通して行うが、私たちは15日に関するメールが来なかった末に申し込みを逃してしまいそのイベントに参加できなかった。案内を待って、来なければ、ネットで検索すればイベントのページに連絡先が載っているはずなのでメールで確認するとよい。

○ Consultation Day（必須）

NGO枠のCSW参加者を統括するNGO CSWの主催で行われる1日がかりのイベントで、NGO向け開会式のような位置づけである。参加費100ドル程度を徴収される（事前に申し込む）。

○ 日本政府代表部によるブリーフィング（必須）

週に一度国連日本政府代表部にて、CSW63日本代表部より、合意結論の採択に向けた討議への参加にあたった日本の方針や議論の様子の共有が行われる。日本BPW連合会会員を含むCSW63への日本からの参加者が出席し、質問をすることができる。

○ BPWの活動（必須）

BPW International主催の「Clair Fulcher Dinner」への参加、毎朝行われるNGO CSW主催の「Morning Briefing」、日本BPWの皆さんとの「ルームミーティング」が現地での主な活動である。Clair Fulcher Dinnerは世界中のBPWメンバーが集まるパーティで、ホテルやレストランで開催される。また、ルームミーティングは3回開いていただいた。

現地でのスケジュール例

現地での様子が想像しやすいように、私の期間中のスケジュールの例を以下に記載する。もちろん、参

加する年によって内容は変化する可能性がある。

3/8（金）初日

10:00 JFK 着
 11:00 – 12:00 タクシーでホテル付近まで移動
 12:40 – 13:00 グランドパス*受け取り
 13:00 – 国連内を簡単に案内していただいた後、自由時間
 The Morgan Library & Museum 訪問
 夕食購入
 16:00 – ホテルチェックイン

* **グランドパス（国連パス）** ……国連への入館証となる IC カードで、国連内のゲートを通ることができるパスです。ECOSOC 加盟団体のみ 20 枚しか発行されません。これがないとイベントに参加できないのです。

3/9（土）Pre-Youth Dialogue

7:30 ホテル出発、MetroCard 購入
 8:00 地下鉄乗車
 8:40 会場入場
 9:00 – 17:00 Pre-CSW Youth Dialogue
 18:00 スーパーで翌日の朝食と昼食を購入
 19:00 – 日本 BPW の皆さんとルームミーティング

3/10（日）Consultation Day

7:30 ホテル出発
 7:45 地下鉄乗車
 9:00 – 15:00 NGO CSW Consultation Day
 18:00 – 21:00 Claire Fulcher Dinner

3/11（月） – 15（金）、18（月） – 21（木）サイドイベント・パラレルイベント参加

私は体力がないのと、あまりに情報量が多くて整理しきれないと感じたので、一日に参加したイベントはモーニングブリーフィングのほか基本的に3つであった。希望すれば、4つや5つ参加することも可能である。

例：18（月）

8:30 – 9:15 モーニングブリーフィング NGO Informal Briefing @Conference Room 4, GA

Building

10:00 – 11:15 サイドイベント Gender, Economic Policy and Women's Human Rights: Tackling Discrimination to Strengthen Social Protection… @Ex-Press Bar, GA Building

[昼食]

12:30 – 13:45 パラレルイベント A Way Out of No Way: Women, Leadership and Equality @Church Center 10F

[休憩、ノート整理、食料品購入など]

16:45 – 18:00 サイドイベント The Road Ahead: Making Gender Parity a Reality @Conference Room 12, GA Building

18:30 – 21:30 BPW の皆さんとルームミーティング

※13（水）、20（水）は 18:15 – 19:45 に国連日本政府代表部にて日本代表部のブリーフィングに参加

3/16（土）、17（日）週末（サイドイベント開催なし、パラレルイベント土曜に2つのみ）

St. Patrick's Day Parade、ブロードウェイミュージカル、セントラルパーク、MoMA、買い物、勉強など

生活について

○ お金

今回の参加にかかった（おおよその）費用を、以下の表に示す。

費目	詳細	支払時期	支払方法	金額	円換算※	備考
宿泊費	The Roosevelt Hotel 14泊/3名	事前	クレカ	\$976.43	¥108,520	
	リゾート料 14泊/3名	現地	現金*	\$187.50	¥21,450	\$562.38/3。クレカのみだが、他の派遣生に立て替えてもらい現金で精算
飲食費	現金	現地	現金	\$280.00	¥32,032	概算
	クレジットカード	現地	クレカ	\$4.00	¥445	
参加費	Consultation Day	事前	クレカ	\$100.00	¥11,114	
旅費交通費	航空券	事前	クレカ	\$1,380.24	¥153,400	
	地下鉄	現地	現金	\$35.00	¥4,004	チャージ残高\$10程度
	タクシー	現地	現金	\$27.00	¥3,089	帰りのみ。\$80/3
雑費	チップ	現地	現金	\$7.00	¥801	概算
	土産代	現地	現金	\$78.82	¥9,017	
	観光（現金）	現地	現金*	\$67.40	¥7,711	自転車はクレカのみだが、他の派遣生に立て替えてもらい現金で精算
	観光（クレジットカード）	現地	クレカ	\$91.95	¥10,219	ブロードウェイチケット
	ランドリー	現地	現金	\$14.25	¥1,630	
計				\$3,249.59	¥363,431	
現地計				\$792.92	¥90,397	
※円換算は、クレジットカード：\$1=111.14円、現金：114.40（両替時のレート）を使用。						

現金をどれほど持っていくべきか、クレジットカードの上限をいくらに設定するべきかは、表を参考に判断していただければよい。

ニューヨークシティは基本的に物価が高いのが辛いところ。だからこそ、その中でも値段が高い（例えば他の店で 1 ドルで買えるものを 2 ～ 3 ドルで売っている）店をなるべく避けて買い物することが重要である。

○ ホテル選び

私たち 2019 年派遣生 3 名は、グランドセントラル駅からほど近い「ルーズベルトホテル」というところに 14 泊した。なお、アメリカのホテルは人数ではなく部屋数で値段が決まる。

良かった点：

立地 → 毎日通う国連本部まで徒歩 15 分。朝早くからブリーフィングが始まるのだが、非常に楽だった。荷物を取ったり置いたりするために日中に一旦戻ることも容易であった。

清潔 → 慣れない環境、時差ボケ、毎日の出会いと学びでどうしても疲労が蓄積するので、毎日戻るとホテルが綺麗にいること、シャワー等も利用に全く問題ないことは非常にありがたかった。

安全 → 大きくきちんとしたホテルなので、安心感があった。周辺の治安もよかった。

サービス → 24 時間対応がある。チェックイン前、チェックアウト後に荷物を預けられる。ホテル前でタクシーを呼んでくれて、すぐに来るので楽である。

悪かった点：

値段 → 宿泊費が安くないのはもちろん、別途徴収されるリゾート料金や、印刷をするのにかかる費用が非常に高かった。

設備 → ホテル内にランドリーがないこと、室内に湯沸かし器がないことは不便であった。

たとえば、Airbnb を利用すれば 1 週間 200 ドル程度で宿泊できるところもあるらしい。その他、ホステル等は圧倒的に宿泊費が安い。私の場合は、「清潔」「安全」を重要視してホテルを探した。

○ 飲食

・概要

夜：スーパーやお店で調達してきてホテルで食べることがほとんどだった。

昼：国連本部ビルを一旦出てピザを食べたり、国連の中のカフェ（値段高め）でサンドイッチを購入して食べたりした。

朝：スーパーやお店で調達しておいてホテルで食べた。

夜ご飯は基本的に 10 ドル～15 ドル。昼ご飯は、サンドイッチなら 8 ドル程度、ピザなら 5 ドル程度使った。

・水、スナック菓子

飲み物は外では水ばかり飲んでいて、ホテルには、ジュースと牛乳を買っておいてコップで飲んでいて。

水は、国連本部ビルで買うと \$ 1.70、間違えてグランドセントラルのコンビニやホテルのコンビニなどで買

ってしまうと\$2 を超えたりするが、スーパーで買えば大きいサイズが\$1 で買えるのでまとめて買うのがおすすめ。もし可能であれば、最初の方に 30 本ほどパックになっているものをなんとか協力して買えば最安値で手に入れられるだろう。スナック菓子も、スーパーなどで安く売っているところをまとめて購入しておくとお得かつ便利。

・おすすめのお店

La Trattoria Pizza : 国連本部のすぐ近くにあるピザ屋。1 スライス 4.30 ドルでピザを売っている。私はピザが大好きで 5 回ほど利用した。

99 Cent Pizza : 限りなく節約してお腹を満たすならここである。1 ドルでプレーンのチーズピザが購入でき、さらに 1 ドルでトッピングを追加できる。味は普通のピザ屋には当然劣るが満足できる程度である。いくつか店舗があるので、Google Map で検索すればよい。

Chipotle : サンドイッチチェーン Subway のメキシカン版のようなチェーン店で、いたるところに店舗がある。入れ物として「ブリトー」「タコス」「ボウル」などを選び、ホワイトライス／ブラウンライス、黒い豆／ピント豆、肉の種類、ソースの種類、その他トッピングを選ぶ仕組みである（ワカモレ「Guac」は追加料金）。3 ドル程度のワカモレをつけて、タコス（3 つ）で 9 ドル程度、ブリトー（大きい！）で 13 ドル程度。

The Amish Market : アーミッシュとはペンシルベニア州で簡素な暮らしを送る人々のことだが、このスーパーは国連本部に近いスーパーの中でも品ぞろえが豊富で比較的安価であるという点でおすすめである。

Whole Foods : オーガニック系のスーパー。国連本部近くにはない（私が行ったのは Bryant Park のすぐ近く）が、水などを購入するには安くて良い。

グランドセントラル駅地下 : グランドセントラル駅の地下にフードコートがある。安価ではないが、Shake Shack、寿司、タコス、アイスクリームなど一通り揃っており便利である。

○ 洗濯

前述の通り私たちのホテルには洗濯設備がなかったので、私は 2 週間で 3 回コインランドリー（Laundromat）に行った。洗剤は日本から旅行用を持参していた。

Laundromat Café : タイムズスクエアのさらに先にあり、遠いが、値段が安価でよかった。洗濯機の使用が\$2.75、乾燥機が 6 分で 25 セント。ヒスパニック系の家族が運営している。

Clean Laundry : 国連本部から徒歩 10 分のところにある。洗濯機の使用が\$4.25、乾燥機が 3 分で 25 セント。アジア系の家族が運営している。1 度洗剤を忘れてしまい、\$1.25 で購入した。同じタイミングで来店していた客と少し会話したが、セルフで洗濯ではなく預けるサービスを利用すると、ぼったくられる（というか単純にあまりに高い）可能性があるようだ。

洗濯・乾燥あわせて約 1 時間。ホテルに近いコインランドリーがなかったので、結局洗濯には移動を含め 2 時間弱を見なければいけなかった。

○ 移動

・治安

移動は基本的に徒歩になるはず。ニューヨーク市内は運転しづらいこともあり歩いている人が大勢いる。人気（ひとけ）があるので基本的に治安はよく、例えば夜もグランドセントラルに近いエリアは 22 時ごろに女子 3 人で歩けた。夜は大通りでない道は近づかないように、また一人では出歩かないようにしたほうがよい。明るいうち（サマータイム開始後は 18 時半ごろまで明るい）は、期間中に滞在するようなエリアは女子一人で歩いて全く問題ない。ネットで治安が良い場所・良くない場所を調べ、良くないエリアには近づかないようにするべき。

・地下鉄

私たちは、Pre-CSW Youth Event に行くときと Consultation Day に行くときの 2 度（往復で 4 度）地下鉄を利用した。地下鉄に乗るためには、事前に MetroCard という PASMO のようなもの（ただし IC カードではない）を 5 ドルで購入する必要がある。これにお金をチャージして地下鉄を利用できる。基本的に乗る前に改札に入る際に通すだけなので、どこまで行っても値段は同じである。地下鉄に乗る際は、Uptown か Downtown かの方向に気を付ける（一度改札を通ってしまうと反対側のホームに行けないことが多いので、地下鉄への階段を降りる時点で確認する）。また、とくに Uptown の電車で、週末はいくつかの駅にしか止まらないことがあるので、乗れる／降りられる駅で間違えずに乗る／降りることに注意する。グランドセントラル駅とタイムズスクエアを結ぶ地下鉄を Shuttle という。

・JFK⇄ホテル（タクシー）

JFK 国際空港からマンハッタンまで、またその逆はタクシーを利用する。正規のタクシーを利用するべき。値段は、空いているときで 60 ドル+チップ、混んでいるときで 70 ドル+チップ（非正規だとぼったくられる可能性がある）。まず料金を支払っておつりをもらってからチップ（7～10 ドル程度）を渡す。帰りは、ホテルによってはタクシーを呼んでくれる。

○ Wi-Fi

私はソフトバンクの iPhone を持っていたので、Wi-Fi を借りる必要がなく「アメリカ放題」という無料サービスで Sprint に接続できた。どのような方法にしても、ホテルや国連本部以外でも常にインターネットに接続できるようにすることを強く推奨する。便利さ、安心感が段違いである。特に Google Map は不可欠。

○ チップ

荷物を預ける：ホテルにてチェックイン前またはチェックアウト後に荷物を預ける場合、預ける際にはチップは必要ないが受け取る際に 1 ドルほど渡すべきである。美術館等でコート・荷物を預け、受け取る際は必須ではないが払う人も多いようだ。

ホテルの部屋清掃：諸説あるようだが、私たちは（交代で）毎朝 1 ドル部屋（ベッドの横の電気のあるテーブル）にチップを置いた。

レストラン：そもそもレストランでの食事は高価なので、学生が自費でレストランでの食事をする機会があるかは分からないが、その場合は、税金の 2 倍ほどのチップを支払う（食事の 15%ほどのチップをつけるべきで、税金が 8%強なので計算しやすいということ）。

タクシー：JFK⇄マンハッタンの場合、運賃に加え 10 ドルのチップを払えばよいようだ。

逆に、レストランではないピザ屋やスーパーやドーナツ屋など、カウンターで会計をする場面で、「TIP」と書かれたアルミの缶などがおいてあることが多いが、払う必要はない（払いたければ払ってもよいが）。また、街中や空港、駅で向こうから近づいてくる人には注意。親切だと思ったら、巨額の“チップ”を要求される（ほぼ恐喝）場合がある。

○ 時差

体質・体力や飛行機での過ごし方にも依るだろうが、私は最初の 5 日ほど時差ボケが抜けず、夜中に 2 回は目が覚め夜は倒れるように寝ていたことを記しておく。逆に、イベント等は朝が早い、時差ボケのおかげで苦ではなかった。ちなみに、私たちの場合到着 3 日目からサマータイムが始まったので、睡眠時間は 1 時間減ったが、おかげで暗くなるのが遅いのは（治安的な意味で）ありがたかった。

観光・お土産

個人的には、多少の観光は有意義な学びを阻害するものではないし、完全に自費でニューヨークまで来ている以上、ぜひ観光も楽しむべきだと感じる。

2 週間滞在する場合、少なくとも 2 度目の週末は空いているはずである。事前に確認したうえで計画を立てるとよい。ブロードウェイが初めてなら、Aladdin、Wicked、Lion King が良いと思う。

また、お土産に関して、国連 Bookshop では国連パスを見せることで 10%の割引を得られる。ちなみに、日本にはないお菓子として Reese's Peanut Butter Cup と Sour Patch Kids がおいしくておすすめ。

持ち物

服装：まず、BPW のパーティに参加するためのドレスがー着必要、それとは別にスーツまたはカチツとした格好一式（そしてそれらに合わせる靴）は念のためあった方がよい。期間中最も長い時間を過ごすのはサイドイベントであるが、サイドイベントには様々な人が大勢いるため（スーツの人、スウェットにジーンズの人、民族衣装に近い服の人）どのような格好をすれば受け入れるかといえばパジャマでも着ない限りは目立つことはないだろうという感じである。よって、セーターにジーンズなどで全く問題はないが、ただでさえアクティビストや地位のある人たちが大勢いる中でただの学生であるという点だけで多少気後れするところはあるので、個人的にはジャケット（2 着持って行っていた）を羽織るかカーディガンを着て、スラックス・濃い色のジーンズまたはきれいめのスカートを履くことで少し馴染めるような気がして好きだった。気候に合わせた格好という意味では、ネットで調べればよいと思うが、室内は暖かいので調整しやすい（かつ手で持ち歩いて荷物にならない）ように考えることをお勧めする。特にホテルにランドリーがない場

合は、下着を多めに持って行くとランドリーに行く回数が少なくて済み楽である。ニューヨークではよく歩くので、スニーカーも必須である。

学生証：空き時間に美術館や博物館（The Met、MoMA、Guggenheim、American Museum of Natural History 等）に行くのなら学生証は必須。例えば MoMA の入館料は一般が 25 ドルなのに対し学生は 14 ドルである。日本の学生証でも学生であることの証明になる。それ以外の場面でも、簡単な身分証として使える場合がある。

その他忘れがちなもの：洗剤、洗濯ネット、防寒具（マフラー、手袋）、折り畳み傘、爪切り、財布（私は 3 つ持って行って日本円用、持ち歩く用、ホテルのセーフティボックスに入れておく用にした）、名刺

※荷物が多くなるが、スーツケースの重さが 23 kg を超えないように注意！

【2019 年度インターン 中尾より】

食事)

- ・スーパーに量り売りのお総菜コーナーがある
- ・リンゴとバナナはいいたところにある

お金)

- ・現金 4 万デビットカード 3 万で足りた(中尾)
- ・キャッシュレス化が進んでいる店もあるので、カードに多めに納金のほうがいいのかも

衣服)

- ・普段通りの冬服に、コートは少し厚めのものを 1 枚持っておくといい
- ・年によって雪がひどかったりそうでもなかったりするので、よく天気予報を見て判断する

ホテル)

- ・NY 中心部なので早めに予約したほうがよりお得
- ・あまり危険を感じる場面はなかったが、2 週間もあるのでセキュリティは大事
- ・洗濯はコインランドリーを使用

交通手段)

- ・NY の近場であれば基本歩きで、少し遠い場所には地下鉄を利用した

国連ビル(おすすめスポット)

- ・お土産屋…国連限定のデザイン文具や、国連推薦の本が売られている
- ・カフェ…国連ビル内にカフェが 2 店舗あり、ランチタイムには長蛇の列が
食べ物少々高め

観光)

- ・セントラルパーク…外側の自転車用レーンでサイクリング
家族連れやペットの散歩に来ている人が多い印象
- ・タイムズスクエア…人が特に込み合っている
着ぐるみを着た知らない人に話しかけられたら対応しないこと
(一緒に写真をとって、その写真代を請求する一種の詐欺)

第17回 CSW インターン募集

2020 年国連女性の地位委員会(CSW64)
へ派遣する女性インターン募集します

日本BPW連合会では、国際問題に関心を持つ大学生または 30 歳以下の女性を対象に、毎年ニューヨークの国連本部で開催される、女性の地位委員会(CSW)に派遣するインターンを募集しています。2003 年のインターン派遣事業開始から、今回は17回目の派遣となります。



募集目的 募集目的 国際問題・国連問題・女性問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。第 64 回女性の地位委員会の優先テーマは、1995 年の北京国際女性会議から 25 年の節目を迎えて「Bijin+25 : The review and appraisal of the implementation of the Beijing Declaration and Platform for Action (仮)」です。

期 間 第 64 回国連女性の地位委員会は、2020 年 3 月 9 日(月)から 20 日(金)に開催されます。登録・事前のイベント、BPW インターンの顔合わせなどの都合で、開始前の前々日(7 日)に到着するのが好ましく※¹、滞在は 10 日以上を期待します。

※¹ 直前にユースを対象としたプログラムが設定され募集が公表される場合があります。

6 つの特典 ● CSW の会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べることができます。

● 国際 BPW(IFBPW)主催の各種活動(ワークショップ、交流会、夕食会など)に参加して、各国の IFBPW メンバーと交流ができます(IFBPW との交流の有料部分は日本 BPW が一部負担)。

● 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。

● 日本政府代表部がおこなう公式説明会に参加できます。

● 世界各国の女性団体の方と交流できます。

● 国際関係・女性問題関係を専攻する女子学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ 20 歳以上の、大学生または 30 歳以下の女性、若干名。事前勉強会への参加、NY では現地プリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方。帰国後は、報告書を作成し日本 BPW 連合会に提出いただく他、BPW が企画するイベント(報告会・NMEC インターン報告・各地の BPW 活動)などに参加いただける方。また今後ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加できる方。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが必ずご加入ください。また、NGO プリーフィングや食事会、有料イベントへの登録料は各自負担になります。但し、BPW が行うイベント(夕食会他)への参加費の一部は BPW が負担します。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文(応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英語で述べて下さい。「日本語で 1000 字前後、英語で 500 words 以内」を添付の上送信。

応募・問合せ csw2020@bpw-japan.jp (日本 BPW 連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2019 年 10 月 09 日(水)

結果発表 2019 年 11 月 09 日(金)

【応募メールへの必要記載事項】

応募メール本文または、添付ファイルに記載願います

氏名 / (ふりがな)

住所 〒 /

連絡先 電話 /

メールアドレス

生年月日 19 年 月 日生

所 属/大学(学部・専攻)又は職業

履歴 高校卒業以後の履歴(学歴・職歴等)

滞在可能期間(予定)

備考 応募にあたって、疑問点などあれば、お書き下さい。

【必要添付書類】

小論文「応募動機及び国際問題、または女性問題、」あるいは国連に関する意見

日本語で 1000 字前後、英語で 500 words 以内

※日本語・英語の両方の論文を提出して下さい

(word あるいは text ファイルでメールに添付)

※選考にあたり、電話インタビューまたは面談などを行う場合があります。また選考後、BPW の事業主旨にそぐわない場合は取り消すこともあります。

その他 ※選考にあたり、電話インタビューまたは面談などを行う場合があります。

募集要領 メールフォームは、下記 BPW のホームページにも掲載しますので参照ください

<http://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html>



認定 NPO 法人日本 BPW 連合会
2019.5.25 発行 (頒布価格 1,000 円)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303
TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876
E-mail office@bpw-japan.jp URL <http://www.bpw-japan.jp/>